

日本ラート協会 会員各位

採点規則2020の一部改訂について

2022年2月21日

日本ラート協会

会長 大塚隆

技術部会長 古屋欽司

会員各位

コロナ禍において、不自由な日々が続いておりますが、様々な工夫の下で活動されていることと存じます。

さて、技術部会では定期的に競技規則の見直しを行っております。現在、段階的な難度上限の引き上げや繰り返しの定義の修正などを行い、国際規則に近づけるための議論を進めております。この度、下記の通り難度を改訂いたします。本改訂の内容は、2022年全日本ラート競技選手権大会から適用されます。これは、初心者から熟練者まで幅広い競技層がある日本の現状を考慮したものであり、競技会において高難度の運動を無理に実施することを推奨するものではありません。会員の皆様におかれましては、高難度の運動については安全に配慮して取り組まれ、十分に習熟した演技構成で競技に臨まれるようお願いいたします。

<採点規則2020の改訂について>

1. 直転の難度採点上限の改訂:

直転の難度算定の上限を、従来の「D難度1運動、C難度7運動」から、「D難度4運動、C難度4運動」へと変更する。

B、C、D難度の下り技に対する加点0.2点については変更しない。したがって、難度の算定の上限は、5.8点となる。

2. 斜転の難度採点上限の改訂:

直転の難度算定の上限を、従来の「D難度1運動、C難度7運動、A難度(着地技)1運動」から、「D難度4運動、C難度4運動、A難度(着地技)1運動」へと変更する。

したがって、難度の算定の上限は、5.8点となる。

<付記>

跳躍においては、国際規則と同様に「ラート競技採点規則2020」においても難度点の上限は設定されていませんので、変更はありません。

以上